

[月刊]

キャッチ ピース

45

通巻124号/1996.8.20 定価100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！
米軍基地を撤去しよう！
反核運動を継続し、核廃絶を！
憲法9条を世界に！
市民による平和政策を提起しよう！
草の根の国際共同作業を進めよう！

横須賀母港艦がトマホークを発射！

米国の対イラクミサイル攻撃に抗議する

沖縄から●県民投票前夜一怒りは静かに9.8へ

佐世保から●米兵犯罪は町の空気を変えたか？

戦後初●日本の軍艦が釜山に入港。

96.8●ヒロシマ、ナガサキからの報告/舞鶴●海上自衛隊基地の拡大に反対

沖縄「特別立法」に反対する100万人署名を！



米兵による強盗殺人未遂事件に抗議する女性たちのデモ(七月二六日・佐世保。一十二ページに記事)

- 維持会員 (月額) ●参加会員 (月額) ●通信会員 (年額)
- 個人1口1000円 個人1口 500円 3000円
- 団体1口2000円 団体1口1000円
- 〈会費は本誌購読料を含みます〉

脱軍備ネットワーク
キャッチピース

横須賀の トマホークが また使われた!

アメリカ合衆国大統領 ビル・クリントン様 イラクへのミサイル攻撃に対する抗議文

9月3日、4日の両日、貴国の軍隊は貴職の承認の下にイラク本土に巡航ミサイルによる攻撃を行いました。国際法を無視したこのような一方的な軍事行動に、世界は驚き、呆れ、そして恐れています。わたしたちも、国際社会の一員として、そして貴国の軍隊に、多大な便宜供与を行っている日本国の主権者として、貴国の野蛮な行為を厳しく糾弾します。

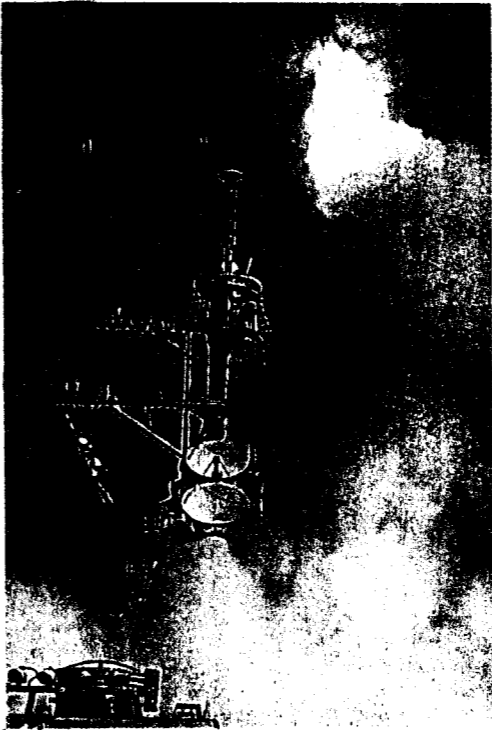
そのような軍事攻撃を正当化する表現は見当たりません。

まさしくこの正当性の欠如こそ、国際社会が一部の例外を除いて、今回の貴国の爆撃を支持しなかった理由です。今回の攻撃決定の理由として圧倒的多数派の見解は、貴職が大統領選目当ての人気獲得策として行ったというものです。このような「個人的」な理由で殺戮と破壊を繰り返すにいたっては、私たちははややうべき言葉も見つかりません。

● 貴職は、米軍の攻撃を正当化する理由として、サダム・フセインイラク大統領がクルド人に対して蛮行を行っているから、と語っていますが、これは人権や人命が脅かされている国にはどこでもミサイルを撃ちこむ用意があるということでしょうか。今回の攻撃を根拠付ける国際法は何でしょうか？ イラクに関する国連決議を見てもこ

● 日本国民としてとりわけ座視できないのは、今回の蛮行に在日米軍基地が使用されたことです。トマホークを発射した艦船のリストの中に、横須賀を母港とする駆逐艦ヒューイットが含まれています。これはそもそも安保条約にも明白に違反する行為です。

● 日米安保条約において確かに米軍は日本の基地使用を認められているとはいえ、無制限ではありません。安保条約第



3日、ペルシャ湾に派遣されている米海軍の駆逐艦ラプーン艦上から発射されるトマホーク巡航ミサイルの台

1条には「武力による威嚇又は武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎むことを約束する。」と記されています。今回の攻撃はそれを裏付ける国連決議すらなく、まさしくこの第1条が禁じている行為に他なりません。貴国軍隊は、安保条約のもっとも根幹にかかるところを否定したわけです。

また安保条約交換公文で「日本国から行なわれる戦闘作戦行動」は「事前協議の主題とする」と定められています。この協議は行われなかったのではありま

せんか。9月3日の第1波の攻撃の後、わが国の橋本龍太郎首相は記者団に対して、「在日米軍が動くことはない」と明言したのです。しかし翌日にはこの首相の非見識と無知をあざ笑うかのよう

で、条約にさえ違反して軍事行動を行うことを私たちは決して容認できません。しかも、「極東における国際的平和及び安全の維持に寄与するため」(安保第6条)に駐留するはずの在日米軍が、なぜアラビア湾でミサイルを発射するのか。確かに今年4月の日米共同声明では、「極東」に代わって「アジア・太平洋」という表現が使われているとはいえ、条約には反映されていません。私たちはこのような「安保再定義」を認めません。

● 今回の貴国の行動によって、冷戦後の日米安保の矛盾が白日の下に晒されました。貴職やわが国の高官たちは、この矛

攻撃作戦に参加 した米艦船

NAVY NEWS SERVICE
96.9.4より

<アラビア海で>ビル・クリントン大統領は本日夕、ペルシャ湾の三隻の水上艦船と一隻の潜水艦に、十七発のトマホークミサイルによるイラクの選択された防空施設目標に対する第二波攻撃を命令した。この攻撃を行った艦船はミサイル駆逐艦ラッセル、駆逐艦ヒューイット、ミサイル駆逐艦ラプーン及び攻撃型原子力潜水艦ジェファソンシティである。(略)昨日の第一波攻撃は、ミサイル巡洋艦シャイロ、ミサイル駆逐艦ラプーン、及びグアムから飛来したB52爆撃機により実行され、二七発の巡航ミサイルが発射された。(略)ヒューイット及びラプーンは空母カールビンソン戦闘団を構成し、アラビア海北部に移動した。ラッセル及びジェファソンシティは第五艦隊司令部の傘下にある。現在同海域に展開している艦船は次のとおりである。空母カールビンソン、原子力ミサイル巡洋艦アーカンソー、同カリフォルニア、ミサイル巡洋艦シャイロ、ミサイル駆逐艦ラプーン、駆逐艦ヒューイット、フリゲート艦コメリン、戦闘支援艦カムデン、揚陸強襲艦トラワ、揚陸輸送艦ドウルス、ドック揚陸艦ラッシュモア、機雷探知艦アードント、同デキストラス、フリゲート艦ドイル、ミサイル駆逐艦ラッセル、フリゲート艦バンデグリフト、攻撃型原子力潜水艦ジェファソンシティ、支援艦船カトーバ、ナイアガラフォール、ティッペカヌー。

(編集部注)

- ヒューイットの母港は横須賀。
- カールビンソン、アーカンソー、カリフォルニア、シャイロ、ジェファソンシティは、5月30日に横須賀に同時入港、6月2日アラビア海に向かって出港していった。

盾を取り繕うために、この9月にいわゆる「2+2」(日米安全保障協議委員会)を開いて、「ガイドライン」(日米防衛協力指針)を改定しようとしています。このような無益で、しかも国際社会の安全に牙をむくような試みは直ちに中止されるべきです。

また私たちは、現在の在日米軍をただちに大幅に縮小することを開始するよう貴職に要求します。ソ連解体後の世界では、貴国の軍隊こそが「地域の紛争の火種」になっており、地域の安定化を阻害しているからです。またサダム・フセインの軍隊のように、貴国の軍隊も日本、とりわけ沖縄において、堪え難い人権侵害を繰り返しているからです。

私たちは、貴職に以下のことを要求いたします。

- (1) 今後、今回と同様の国際法を無視した軍事力の行使を中東地域、並びに世界のいかなる地域でも繰り返さないこと。
- (2) 在日米軍の兵力を今回の武力攻撃に使用したことを、日本政府と国民に詫びて、二度と繰り返さないことを約束すること。

て、全面的な見直しをすることが必要です。今回の米軍の愚行によって、貴職がこれまでの政策の過ちに気付き、自らの職を賭して、日本が安保条約の呪縛から解放放たれるよう努力されることを、私たちは平和を願う市民として要求し、期待します。

私たちは、貴職に以下のことを要求します。

- (1) 今回の米軍のイラク爆撃を支持した日本政府の立場を撤回し、国際社会でアメリカの行動を断罪すること。
- (2) 在日米軍が今回の攻撃に参加したことに抗議し謝罪させ、今後このようなことがないことを米国に確約させること。
- (3) 現在進行している「ガイドライン」見直し作業を白紙撤回する。現行の「ガイドライン」は破棄する。
- (4) 在日米軍の大幅かつ急速な縮小をアメリカに確約させる。
- (5) 在日米軍の人権侵害について調査し、早急に改善させる。
- (6) 安保条約を全面的に見直す(廃棄を含む)プロジェクトチームを作り、その研究結果を国民の討議にかけること。

(3) 在日米軍の縮小・撤退につながる措置を迅速に開始すること。

(4) 「ガイドライン」改定要求を取り下げ、現行の「ガイドライン」も廃止するよう日本側に提案すること。

(5) 在日米軍の、日本住民に対するあらゆる人権侵害行為(暴力、騒音、恐怖感)を直ちに中止させ、被害者に対して適当な補償を行うこと。

一九九六年九月六日

脱軍備ネットワークキャッチ
ピース

内閣総理大臣 橋本龍太郎様 米国のイラク攻撃支持に対する抗議文(抜粋)

貴職は今回の第一波ミサイル攻撃の直後記者団に、「在日米軍が動くことはない」と明言されました。しかしまさにその翌日、日本の港を出港していたビューイットは、トマホークミサイルをイラク領土に撃ちこんだのです。(略) 貴職が意図的に嘘をついているのでなければ、自国の領土に駐留する軍隊の行動に関して、内閣総理大臣が何も知らないという恐るべき事態が生まれているのです。貴職は、自身の名誉と国民の安全に賭けて、米軍に厳しく抗議すべきです。(略)

しかし今回の事態で米国ばかりを責めるわけにはいきません。(略) 貴職は本年4月のクリントン大統領との共同声明に

おいて、安保条約の「極東」の範囲を「アジア・太平洋」に広げることによって、安保条約を強化しようとしているのです。そのためにこの財政難にも関わらず私たちの血税をさらに多く米軍に注ぎ込んで、沖縄の基地を本土に「玉突き移転」する政策を実施しようとしています。そればかりか、この9月にはいわゆる「2+2」(日米安全保障協議委員会)を開いて、「ガイドライン」(日米防衛協力指針)を改定して、日米両軍を完全に一体化させようとしています。(略)

「安保条約」は不磨の大典ではありません。これまでの歴代総理のように安保の前で思考停止に陥るのではなく、時代に応じて、憲法の平和主義の理念に沿っ

：戦間的な軍艦でなく、練習艦隊の親善訪問だから正当化されるというものではありません。更にベルシャ湾への掃海艦隊の派兵に始まった自衛隊の海外派兵の流れと、冷戦終結後も依然として米軍基地と自衛隊を維持・拡大し、有事対応の観点から日米の共同実戦体制を強化する動きを強めている情勢を直視するとき、自衛隊軍艦の韓国への寄港は、日米間三国の軍事同盟をより強化するための大きなステップとして黙視することはできません。私たちは、呉・広島

市民として、ベルシャ湾への派兵が呉から始められたのと同じように、戦後初の韓国への軍艦の派遣が、また呉から行なわれたことに強く抗議します。(略) 自衛隊は、名実ともに「占守防衛」の枠を取りはらい、日米両国の膨大な利権を守るために、両者が共同で軍事的に行動する体制がためをしようとしています。この先に見えるのは「第三世界で紛争がおき、日本の権益が巻き込まれそうになったとき」自衛隊を海外に派遣できるという本格的な出兵です。(略) 今回の海上自衛隊の韓国寄港は、そのような流れと軌を一にしたものです。(略) 集団的自衛権の行使はしないという考えに沿って、自衛隊の韓国への派遣を今後一切中止し、リムパックなど他国との合同軍事演習への参加は一切やめるよう強く求めるものです。

自衛隊練習艦隊が 韓国訪問

9月2日、呉を定係港とする海上自衛隊の練習艦隊「かしま」など2隻が韓国の釜山港へ寄港した。戦後、日本の軍艦が朝鮮半島に寄港したのは初めてのことで、植民地支配や戦後補償問題に国家としては何一つ責任を果たさなまま送り込まれた日本軍に韓国では怒りの声があがった。「ピースリンク広島・呉・岩国」の防衛庁長官あて抗議文から。

私たちは、韓国への自衛隊の派遣に強く抗議するとともに、貴職に次の点を求めるものです。(1) 日米韓三国の軍事同盟の強化につながる韓国への自衛隊の派遣を今後一切行わないこと。(2) リムパックなど、いかなる形の共同演習も行わないこと。(3) 極東有事への日米の軍事協力を進める方向でガイドラインを見直すのではなくむしろガイドラインそのものを撤回すること。(4) 「極東有事」を口実とした有事体制づくりをしないこと。(5) いかなる形においても自衛隊の海外派兵を行なわないこと。

沖縄から

沖縄がかわれば、アジア・太平洋がかわる

報告 ⑮

「沖縄から」
「沖繩ボイス」
編集委員
伊波洋一
(沖縄県議会議員・前沖縄中部地区労働局長)

〒901-22
沖縄県宜野湾市志真志517-1
沖繩県立平和センター気付
TEL 098(898)6628
FAX 098(897)6653
郵便振替 鹿兒島2-11249

不当判決に怒り広がる

「判決を言い渡します。主文、本件上告を棄却する。上告費用は上告人の負担とする」。八月二十八日午後三時最高裁判所大法廷で三好達裁判長がわずか一分足らずの判決を言い渡し、閉廷を告げて十五人の裁判官がさっさと退席した。あつげにとられた傍聴人は立ち上がり、法廷内は怒りの声に包まれた。

日本国憲法が保障する人権の護り手であ

怒りは静かに九月八日に向かっている。

るべき最高裁判所が戦後五十一年以上も不当な米軍基地に苦しめられてきた沖縄県民の現実を不問にした一瞬であった。

最高裁判決にかすかな期待を持って沖縄での実況テレビ報道番組を観ていた多くの沖縄県民が最高裁への失望と同時に沖縄差別に対する怒りを覚えた。

「県民の長年にわたる切実な願い、声は届かなかつた。今の日本の民主政治の実情をそのまま示していると考ええる。高裁も最高裁も基地の実態、県民の声をじかに見聞きしていない。証人の証言もほとんど聞かないまま現行の法令の適合性についてだけ、判決を下している。(沖縄の痛みを)司法の場では問題にしないことをあらためて痛感させられたのが率直な気持ちだ」と大田沖繩県知事は記者会見で述べたが、多くの県民の気持ちも同様だろう。

地元紙の沖繩タイムスは県内五十三市町村の最高裁判決に対するコメントを翌日の朝刊に載せている。四十名の市町村長が怒りさえ覚える等と最高裁判決を批判した。最高裁判決に従うべきとしたのは四市町村長(浦添市長、勝連町長、城辺町長、下地町長)だけであり、残りの十市町村長は判

決へのコメントをさけた。今回の最高裁判決が沖縄県民の期待を裏切った判決であることがよくわかる。

ところで、梶山官房長官は「政府の判断は正しかった」と政府コメントを発表した。政府は今後は大田知事に最高裁判決を尊重することを求め、来年五月十五日に期限切れを迎える契約拒否地主約三千名の土地の強制使用手続きへの迅速な対処を求めるだろう。

具体的には、代理署名拒否訴訟に続いて、大田知事の公告縦覧の代行拒否に対して国が知事を訴えた職務命令訴訟で国勝訴の高裁判決が出た時点で、国は大田知事に代行を命じる高裁判決に従うことを求めてくる。

しかし、市町村長のコメント以上に沖縄県民の最高裁判決に対する怒りは大きい。その怒りは静かに、九月八日の県民投票に向かっている。基地の整理縮小を求める県民投票が圧倒的に成功すれば、大田知事が最高裁判決に従う理由も余地も少なくなる。

実は、今年の八月二十八日は沖縄にとって特別な日だった。旧暦の七月十五日で祖

先崇拜の宗教行事でも一番大切なお盆の最終日だった。民間の会社はほとんど休日で、最近まで市町村役場も休みだった。沖縄県民の多くが祖先の霊を祭った家に集まり、供え物をして祖先に家族の健康や幸せを願うのである。

今年も、最高裁判決に怒り、県民投票の成功を願う人も多かったのではないかと思う。

九月八日は県民投票の日

今、沖縄は県民投票一色である。沖縄県をはじめ県下五十三市町村が一生涯懸命に県民投票の宣伝を行なっている。

県内の道路のあちこちに「9月8日は全国初の県民投票です」との横断幕やのぼりが掲げられている。八月二十九日に告示されておき、この号が手元に届くころには、投票結果は知られているだろう。沖縄の米軍基地を問う県民投票は、前号で述べたように連合沖縄が条例制定請求を行ない、県知事が六月の臨時議会に提案して成立したものである。

県民投票が近付くにつれて、沖縄県や各市町村が行なっている県民投票の頻繁な参加およびかけに、静観を決めていた幾つかの県内団体が米軍基地が返還されることを恐れて「棄権」を打ち出してきた。

八月十五日、基地内従業員(六千名余)

沖縄の米軍用地強制使用のための特別立法に反対する 百万人署名運動 にご協力を!

<請願事項>

- 1. 沖縄の軍事基地を大幅に縮小・撤去し、基地のタイ回しをやめること。
- 1. 住民の人権を守ることを優先して、在日米軍の地位に関する協定を見直すこと。
- 1. 軍事基地のためね私有地を強制収用する特別立法を行わないこと。

<呼びかけ人>阿部知子 新崎盛暉 有銘政夫 宇井純 上原成信 内田雅敏 大石芳野 大島孝一 小田実 木村晋介 小島清文 小室等 佐高信 信太正道 新谷のり子 高里鈴代 辻元清美 暉峻淑子 照屋秀伝 富山洋子内藤 隆 中北龍太郎 中島通子 中山千夏 丹羽雅雄 福島瑞穂 松井やより 武者小路公秀 矢崎泰久 山内敏弘 吉川勇一 吉武輝子 米盛裕二

<集約予定> 十月中旬
○署名用紙を同封しました。コピーして広めてください。
○賛同団体、個人も募っています。賛同金は団体1口5000円、個人1口1000円。
○お問い合わせ、連絡先は〒101 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4F ☎03-5275-5989 FAX03-3234-4118 郵便振替00140-4-110332 沖縄百万人署名運動

県民投票に向けた様々な取り組み

県民投票にむけて多くの団体が、多様な

が加入する全駐労沖縄地区本部は県民投票の成功を取り組んでいるが、県民投票に雇用不安を持つ非組合員約三十名を中心に米軍基地の存続を求め県民投票の棄権を呼びかける第二組合結成会を持った。

さらに、ほとんどの軍用地主が加入する軍用地主等地主連合会が告示日の八月二十九日緊急会議を開き、実質棄権の含みをもつ静観する方針を決めた。しかし、同日午後には読谷村から「象の檻」や普天間飛行場のヘリポート、ブルービーチ代替施設など多くの施設移設候補地とされている金武町の軍用地主会はキャンプハンセン海兵隊基地からの様々な被害が集中していることをあげて、自由意志での投票を決めた。

このような中、自民党沖縄県連は八月二十六日に議員総会を開き、県民投票の棄権を県民に呼かけることを決定し、記者会見した。

発表と同時に多くの県民から抗議の電話が自民党県連に殺到し、数日後に自民党沖縄県連は棄権呼びかけ決定を撤回した。

このような動きは、人々が基地の整理縮小、撤去が現実的なものになっているからに他ならない。

取り組みを行なっているがマスコミに報道されたものを紹介する。前号で紹介したテレビ・ラジオでのスポット宣伝が加わり沖縄が県民投票に向かっている雰囲気があるだろう。

八月十四日 宜野湾市、宮古で推進協議会結成。両方とも市長が議長。那覇市長が街頭で県民投票の参加を呼び掛けるチラシ配布。

八月十五日 県民投票を考える女性議員トーク&トークが那覇市で開催された。県民投票の成功のために県内各市町村を駆け回る「平和のタスキ」リレー出発式が平和の礎（いしじ）で行なわれた。八月十六日「平和のタスキ」リレーが辺土岬、与那国からスタート県内各市町村を駆け回った。

八月十九日 那覇市が県民投票推進大会。宮古島で「県民投票を成功させる女性ネットワーク」が模擬投票を実施し賛成九七・四％。沖縄市で県民投票推進協が結成される。

八月二十三日 「平和のタスキリレー」が離島を含め県内全市町村約二キロの道のりを八日で駆け回り那覇市に到着した。宮古で女性フォーラムが行なわれた。

八月二十四日 読谷村で「県民投票を成功させる村民総決起大会」が開催された。八月二十五日 名護市では朝市で特産品をビ-

ールしながら県民投票のチラシ配り。佐敷町で県民投票の講演と芸能の夕べ、八重山で「トーク&ライブ in 石垣島」。

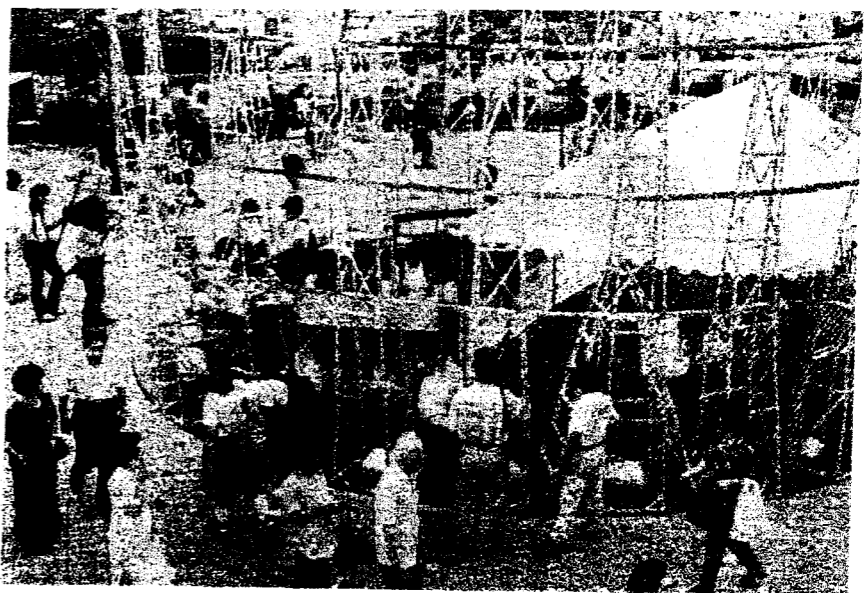
八月二十八日 県民投票推進協が記者会見し、最高裁判決を批判しながら県民投票で県民意志を明確にする重要性を訴えた。具志川市で「県民投票を成功させる市民総決起大会」が開催された。

八月二十九日 県民投票告示。那覇市推進協は、最高裁判決を批判して約三百名の県民投票出陣式を行った。県民投票推進協は最高裁判決抗議集会を那覇市で開催。宮古女性ネットワークが最高裁判決に抗議し県民投票参加を呼び掛ける緊急アピール。

八月三十日 連合沖縄中部地協「県民投票を成功させる総決起集会」を沖縄市で開催。那覇市では「県民投票の成功をめざす平和コンサート」が街頭で行なわれた。

八月三十一日 県内六大学の学生が、宜野湾市で吉元副知事をゲストに県民投票と沖縄の未来について語る討論会を開催した。那覇市では街頭で模擬投票が行なわれ、浦添市では「沖縄・二十一世紀へのメッセージ」と題して若者向けイベントが開かれた。

九月一日 「県民投票を成功させる青年集会」が那覇市で開かれた。約千名の参加者が行なった模擬投票では九百九十名が賛成に○(マル)をつけた。那覇市で沖縄の未来



子象のオリ

を開く女性の会が約五百十名の参加で県民投票シンポジウムを開いた。名護市で「沖縄トーク&ライブ」が開かれた。浦添市で聴覚障害者への県民投票講習会が開かれた。

九月二日 宜野湾市で県民投票市民集会。

具志川市と石川市で市長先頭に県民投票よびかけチラシを配布。那覇市は「象の檻」のミニチュア「子象の檻」を繁華街に設置して八日まで模擬投票を開始した。

九月三日 「県民投票を成功させる県民大会」に約五千人が参加しデモ行進。宮古、八重山で郡民総決起大会がそれぞれ開かれた。

九月四日 県内五十二の高校で高校生による模擬県民投票が開始された。沖縄市市民平和ネットワークが県民投票への参加をよびかけるチラシを配布。石川市で「二十一世紀の沖縄を問う講演会」。

県民投票への参加と基地整理縮小に賛成の投票を呼びかける地元二紙への全面広告も始まった。九月二日(安保破棄・中央実行委員会)見開き二面、(全国商工団体連合会)、三日(全労連)、四日(全通沖縄地区本部)、五日(連合沖縄、神奈川県統一促進会議、新日本婦人の会、近畿の会など)計六面など投票日まで続いていく。

世論調査は関心の高さを示す

沖縄タイムスと朝日新聞による県民投票世論調査が直前の九月四日に発表された。「必ず行く」が六十九％、「できれば行く」二十一％、「行かない」七％。基地の整理縮小、地位協定見直しへの賛成は七十七％

と七十八％。単純に掛けると全有権者の五十三％以上が賛成の投票をする予想されている。沖縄の雰囲気は、盛り上がりつつある。投票率の高低は沖縄県知事の今後の対応に大きな影響を与えると予想されており、日本政府は、表向きは静観しながら投票率が高くなることを懸念している。

県民投票後の基地問題

昨年からの大田知事の代理署名拒否は橋本首相の署名と八月二十八日の最高裁判決で決着したが、同じく大田知事が拒否している公告縦覧代行に対する国務訴訟の最高裁判決が九月中に出る可能性があり、大田知事に対する国などの圧力が強まっている。

日本の米軍基地擁護派は日米安保の危機と深刻に捉えており、特別立法をちらつかせている。もちろん沖縄県民のほとんどは特別立法には反対だ。沖縄の米軍基地を維持するため政府が力づくで特別立法を強行すれば、憲法にしたがって特別立法の是非を問う県民投票をセットさせなければならぬ。

日米両政府が合意した基地返還や演習移転の実施は移転先や移設先の合意が得られず、SACO(日米特別行動委員会)が九月中に県民の納得のいく結論を出せる状況にない。

しかし、日本政府や自民党などとの関係を決定的にこじらすことなく基地の整理縮小を了解させて、軍用地跡地利用を沖縄発展の起爆剤にしようと沖縄県サイドは考えている。

県民投票が示すであろう基地の整理縮小を求める県民の声をバックに、二万八千人の契約地主や約八千名もの基地に働く基地従業員の存在、県内移設に対する住民の激しい抵抗等、大田知事にとってどのような選択も苦渋の選択となるに違いない。

私は、公告縦覧についても拒否し続けて上告して争うべきだと考えている。なぜなら、最高裁の裁判官達にも沖縄の基地問題の本質を理解してもらわなければならないからだ。

代理署名拒否裁判で裁判官十五名全員が一致した最高裁判決は、一般的良識から大きく外れている。多くの主なマスコミも、朝日新聞「最高裁も沖縄を拒んだ」、毎日新聞「基地集中の実態に冷淡だ」、北海道新聞「沖縄差別に目をつぶった司法」、中国新聞「司法は沖縄の心にこたえたか」と手厳しく批判している。何度でも沖縄の米軍基地問題を最高裁に上告すべきだ。

沖縄の声を出し続けることが重要である。(九月四日記)

メッセージ&公開質問 民意無視の実弾演習移転 内定に抗議

政府は、7月31日、沖縄の県道越え実弾射撃訓練の本土移転候補地として5ヶ所の候補地を内定し、8月1日より関係自治体への説明作業に入った。

昨秋の沖縄における少女暴行事件以来俄に実現を帯びたこの実弾射撃訓練の移転問題に対して、早い時期から候補地に挙げられていた各演習場の自治体及び住民に対して、その間政府からは何の情報や説明もなく、住民は不安と疑心暗鬼に苛まれた数か月を過ごして参りました。

この度、正式に政府より発表があり、懸念していた事態が生起



したことに強い憤りと、この様な政治手法への不快感が沸いています。

政府は住民の理解を得たい、と言いながら何の事前説明の努力もせず、行政レベルでの国民の目に見えない所での作業に終始し、最終的結論を国民に押しつけ、一時的な反発があっても時の経過を待ってウヤムヤのうちに既成事実化する、という従来の手法しか取り得ない、民意無視と従来手法への盲信的呪縛から脱却できない無能さと、政治家としてのコンセンサスの構築努力を怠る無責任極まり無い姿勢に更なる憤りが沸いて来ております。

米軍基地イコール安保条約と結び付け、その構図を持って国民の思考力を停止するやり方はもはや通用しないことを認識すべき時期にきていることに気付かない。

国民にとって基地問題は、生活環境の破壊に直結する環境問題に転化しているのである。沖縄の声は、まさにその代表的なシンボルであることに気付いていない。

この度の政府発表は、5候補地のみならず、沖縄を含め本土内の既存の米軍基地においても、米軍基地が抱えている諸問題が噴出し、近隣住民を中心とした国民的議論を呼び起こす点火剤となるであろう。

政府はアメリカ政府との交渉や意向の汲み取りには、ことのほか熱心であるが、わが国民への説明や、民意の汲み取りにはトンと努力を払わない。

わが国は、民主主義を標榜しているが、まだ上意下達の思考が生き残っている政治的發展途上国であることを痛感する。自己の脳裏に仮想敵国の影を祭り上げ、米国の軍事力に依存しなければ国家の危機が訪れるが如き妄想から脱却すべきである。国家の平和は、まず自国の絶えまざる努力と国民の信頼感を基盤に支えられるものである。平和を脅かす敵は外部にあらず。

貴殿は、この度の実弾演習移転及び米軍基地移転問題のかかる状況を如何ように認識されているか、御意見を伺いたい。誠意あるご解答をお待ちしております。

なお、解答の有無及び解答の内容は当ネットワークを通じて公表する予定である事を御承知下さい。以上。

「米軍基地と日本をどうする」全国NET

東日本地区 世話人代表 門屋信行 〒410-12 静岡県裾野市須山 2255-3218

TEL/FAX0559-98-2225

西日本地区 世話人代表 佐藤晶 〒879-51 大分県由布院町岳本

TEL0977-84-2963/FAX0977-84-2953

*「全国ネット」は移転候補地の住民グループが7月24日に結成したネットワークです。(編集部)

八月二十八日、「沖縄代理署名訴訟」の上告審で、沖縄県の上告を棄却する判決がでた。いくつかの新聞には「県議の敗訴確定」の字が見える。その数日前、某公共放送のニュース番組はこの問題をとりあげ、「国益」のハチマキをしめた橋本首相に、「県益」のハチマキをしめた大田知事を対峙させていた。ちよつとちがうんじゃないのと私は心の中で叫んでいた。というのも、米軍基地の問題をもとより「利益」なんてもので考えるべきではないと思うからだ。そしてまた、「国益」と呼ばれるものの「国」とは何なのかと思う。

教科書通り、国土と国民と主権の三要素をもつものだというのなら、「利益」は主要に国民から出てくるものだろう。日本で「国益」という場合には、まず国が前提でそこから出てきた利益を押しつけられるようなイヤな感じがつきまとう。それを沖縄県の利益と対比させるなんてますますウサン臭い。米軍の訓練ひとつとっても、本土で受け入れる自治体なんて皆無だ。米軍基地のあることで生じる「国益」なんて、

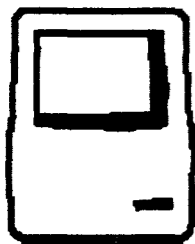
沖縄だけでなく誰だつて受け入れられないものではないか。

今回の報道を見ながら思い出したことがある。十年ほど前、下北半島の六ヶ所村に行った。核燃料サイクル基地の建設をめぐって村はまっぴらつ。私の目の前で小競り合いもあつた。憎しみをぶつけあう村の人たちを目のあたりにして、本当に对立しているのは都会と六ヶ所村なのに痛切に思った。この人たちをこんなに対立させてはならないと思つた。迷惑でやっかいな問題を田舎に押しつけ、都会の人間はのほほんとしているなと居心地が悪かつた。沖縄についてもそう思う。判決が出たらインタビューは沖縄に飛び、沖縄の人々にマイクを向けた。そして報道するのは、沖縄の人たちにいるいろいろな意見、立場があり、対立だつてあるのだということ。マスコミは「公平を期する」あまりに「いろいろな意見」、「意見のちがいを強調しすぎてはいまいか。ちがいがあつたのは当たり前。対立も当然あるだろう。問題は、本土の私たちがこれをどううけとめるかということだ。だから、本土の私たちの無関心

こそとりあげるべきなのに。

もう沖縄の人たちへのインタビューはやめにして、どんどん本土の、しかも都会の人間に「どうなの」「あなたはどう思うの」ときくべきだ。日本の一人一人が、日米安保と米軍基地の問題を考えてこそ、沖縄の問題は解決に向かうのではないだろうか。(リボンの騎士)

マイクを向けなきゃ
いけないのは
本土の私たち
なのに



今月のひとこと

ボセから 米兵犯罪

七月十六日に起きた、米艦マクラーズスキー乗組員による強盗殺人未遂事件。ここでも犯罪の刃は力弱き女性に向けられた。この町もまた、沖縄と変わらぬ現実の中にあることを示したこの事件だが、その背景や本質はほとんど問われていないように見える。

「事件」は町を変えたか？

七月十六日未明に起きた米兵による強盗殺人未遂事件から一ヶ月、佐世保の街は事件前と何一つ変わっていないように見える。

事件直後には「夜の一人歩きは怖い」という声も数多く聞かれたが、夏の宵、街には若い女性の姿があふれ事件の影響など微塵も感じられない。

米軍・市・商工会議所で実行委員会を作り、毎年基地内で催される「西海アメリカンカンフェスティバル」通称「アメフェス」は今年で十二回目を迎えたが、八月三、四日の両日、基地内は例年どおり二十万人の人出で賑わった。

その後起きた沖繩の少女暴行事件が、広範な沖縄県民の抗議によって基地の縮小・撤去に向けての大きな運動へと発展し、現在も続いているのは対称的である。

「人を殺すための訓練を日常的に続け、徹底した階級社会である軍隊の中で人間性を奪われた若者が暴力に走るのには当然のことだ」。この認識が昨夏の私たちに足りなかったのではなかったか。

去年の事件に強く抗議をしていれば、今回の事件は防げたかもしれない……という苦い思いも私にはあった。

それに、佐世保一番の繁華街で起きた今回の事件は「誰もが被害者になる可能性」を示しているのだ。とにかく急いで抗議の声を上げなければならぬ。

翌十七日、佐世保基地についての学習会に一緒に参加している女性市議Hさんに連絡。エンプラ入港以来、二十八年間毎月十九日にデモを続けている「十九日佐世保市民の会」の定例デモに合わせ、デモとピラ配りの抗議行動を計画。彼女は、女性グループや育児グループに呼びかけ、毎月十人前後でしかない「十

在日米軍基地を抱える街の中でも、最も親米的（何しろ「こういふ時だからこそ、米軍と仲良くしなければ」と米軍とソフトの親善試合をしたチームもあるくらいなのだ）とされる佐世保で「反基地」を訴えていくことの困難さを改めて感じているこの頃だが、事件の経過と私たち市民グループの抗議の取り組みを紹介したい。

この事件の第一報を、私は十六日早朝のラジオのニュースで知った。「佐世保の島の瀬市営駐車場、今日午前一時頃若い女性が襲われ、のどを切られてバツ

この前日の十八日には社民党の女性市議Mさんより「女たちで抗議の声を上げよう」との提案があり、「基地犯罪を許さない女たちの会」を結成。この会で二十一日事件現場横の商店街で「私たちは安心して暮らせる街を望んでいる」のピラ一千枚を配布。

また、二十六日には前記M市議の呼びかけにより女たちだけの集会を開催。思想・信条を越えた二百人の女たちが集まり「力の弱い女性が犯罪の犠牲になったことへの怒り」と「一、事件の徹底究明と米海軍としての厳罰処置。一、被害者に対する米海軍の心からの謝罪と充分で迅速な補償。一、事件の再発防止のため、綱紀粛正の一層の徹底と警備体制の強化」を求めてデモを行った。

二十日には、日米地位協定見直し後初めて、起訴前に米兵が日本側に引き渡され、逮捕された。事件後四日という早さだった。しかし、この逮捕は私たちの抗議行動

グを奪われた」という簡単な報道だったが、私はすぐに「米兵の犯行にちがいない」と感じた。羽交い締めにし、のどを掻き切る手口は映画「ランボー」を想起させ、犯人は日本人ではないという確信があった。

午後に入って、新聞社から「犯人はアメリカ兵らしい」との情報もたらされたが、私は「そう思っていました」と答えた。

佐世保では昨夏も米兵による殺人未遂事件が起こっている。

これは、同棲中の日本人女性から別れ話を持ち出された二十才の米兵が相手の女性の首を絞めたというもので、被害者の女性は現在も車椅子の生活を余儀なくされ社会復帰は困難とされている。この事件は、男女関係のもつれと報道されマスコミでも大きな扱いはされなかったし、政党や市民団体、女性グループからも抗議の声は上がらなかった。

宮野由美子 市民ネットワークさせば

によって成されたのではない。昨秋から続いている沖縄県民の反基地運動の成果であるし、「佐世保を第二の沖縄にしないように」という日本と米国の思惑が働いたためでもある。

今回結成された「基地犯罪を許さない女たちの会」も沖繩の「軍隊・基地を許さない行動する女たちの会」のように基地撤去に向けての原動力になり得る可能性はほとんどない。

二十六日の集會参加者の中には今回の事件を「基地があるゆえの犯罪」ととらえるより「米兵個人の資質の問題」とした人が多くいたし、「事件には抗議するが、基地撤去とは別問題」とする人も多くいたからである。

事件後、この街の何が変わり、何が変わらなかったのか？

確かに、米兵のパトロールが増え、若い兵士たちは門限までに基地内に戻らなければ処罰されることになった。

しかし、この街の米軍に対する友好的な市民感情は少しも変わらぬし、前にも増して友好的であるようにさえ思える。

韓国、沖縄とつながる「平和の作り方」

うすれる「広島らしさ」
に少し心配も

山田順二●ヒロシマの集い事務局



【はじめに】 八月五日から六日にかけて、広島市中区の県民文化センターを主な会場として「平和に生きる社会を創るヒロシマのつどい―一九九六」が開催された。主催は同実行委員会、参加者数は二日間を通して約二〇〇人だった。今年の集いは「沖縄―岩国―ヒロシマ―核の傘―のもとで平和は守れるか」と題し、基地問題とCTBTに焦点を当てて開催された。

主なプログラムは、(一)ワークショッ
プ「在韓被爆者からみた被爆者援護法と
戦後五一年（講師・豊永恵三郎さん）」、
(二)オープン・フォーラム「沖
縄―岩国―ヒロシマ」（以上、五
日午後―夜）、(三)講演と討論
「核の傘のもとで平和は守れる
か。CTBTの現状と課題を考
える（講師梅林宏道さん）」（六
日午前）であった。



8月6日「岩国基地
フィールドワーク」で、
沖合い埋め立て拡張
予定地を背に。右が
韓国からのゲスト金
容漢さん。左は田村
順玄市議。

ンハン）さん、沖縄の新垣重雄さんのス
ピーチだった。これらは、米軍基地の縮
小撤廃運動の最前線の現場からの発言と
して聴衆の胸に深く響いた。ここでは、
この第二部の議論をお伝えする。

【沖縄―岩国―ヒロシマ】

視点の変化で広がる
韓国の基地反対運動

最初に提起に立った金容漢さんは、龍
山（ヨンサン）米軍基地の平澤（ピョン
テク）移転に決死反対する市民の集いの
議長だ。一九九三年、ソウル・ヨンサン
米軍基地の平澤への移転が報道され、住
民運動の指導者として三年間闘い続け移
転を阻止した。すると、反対にソウルで
移転推進運動が始まった。両者の動きを
住民エゴの対立から止揚し、米軍基地返
還運動へと転換させた。

米韓相互防衛条約では、米国は韓国内
の米軍基地を「無期限に」使用できるこ
とになっている。これに対し、金さんた
ちの運動は、「基地存続に期限」を設け、
それまでは米国が「賃貸料」を支払うよ
うにするという提案をした。それまでの
「ヤンキー・ゴー・ホーム」型運動は、韓

国民衆には北朝鮮を利するだけだと映っ
ていた。今回の提案は国民のナシヨナリ
ズム感情にも合致し、大きな反響を呼び
起こしたのだ。

沖縄には七五%の
発言権がある

新垣重雄さんは、現在、沖縄社会大衆
党委員長である島袋宗康参議院議員の秘
書を務めている。沖縄問題―基地問題で
あり、沖縄県民の心情をくみ取らないま
ま行われた復帰の時点の問題がそのまま
残っていると指摘する。

戦時中、石垣島の住民が日本軍の命令
でジャングルに疎開させられ、マラリヤ
のため三三〇〇人が死亡した事件があ
った。日本政府は三億円の感謝事業を
実施したが、国家責任を回避したまま
だ。これは日本国家の他民族・他文化・
少数者に対する差別体質が今も受け継が
れていることを意味する。

反戦地主の抗議はその市町村の首長を
動かし、首長たちは沖縄県知事を動かした。
地主たちの「蜂の一刺し」が重要
だった。

現在、沖縄の問題を沖縄県民自身で考

え、行動する運動に取り組んでいる。こ
れは「民主主義の学校」に発展する可能
性がある。日本の米軍基地の七五%を抱
える沖縄には米軍基地問題に関して七五
%の発言力をもっていると訴えた。

●地域とネットワーク
長崎、岩国、広島

市民運動ネットワーク長崎の葛西よう
こさんは一市民としての感覚にもとづく
運動を一〇年続けてきた。現在は「原爆
中心碑撤去反対運動」に取り組んでい
る。田村順玄さんは、岩国市議会議員で
長年米軍岩国基地問題に取り組んでき
た。最近の調査で日本における米軍の低
空飛行ルート八本中六本までが岩国を起
点としていることが分かった。岩国市民
を対象に行ったアンケート調査では六
七割が基地の存在に疑問をもっている
と結果が出たという。ピースリンク広
島・呉・岩国代表の湯浅一郎さんは、「安
保再定義」とは「戦争ができる国家体
制」の整備に他ならないという。沖縄か
らの問いかけに答え、自分たち自身の地
域の運動として、岩国基地強化に反対す
る運動に取り組む決意を示した。

●反核実験、反原発海外の動き

この他、海外からのゲストとして、ポ
ブ・ジエームズさん「グリーンピース」、
ウルスラ・シェーンベルガーさん「ドイ
ツ緑の党国会議員」、アチン・バナイクさ
ん「インド、コラムニスト」が発言した。
核実験への抗議行動の紹介、巻町の住民
投票結果を知って自分たちの反原発運動
が勇気づけられるであろうこと、(不十
分なものであっても)CTBTを妥結す
べきであること、などを述べた。

●「残された疑問と課題」 発言者の充実

にも関わらず、今年の集会の参加者数は
昨年の三分の二までに減少した。このう
ち広島の人元からの参加は三割にすぎな
い。「全国集会」を意識するために余所か
らの希望でプログラムが組み立てられて
きた。このことが「広島らしさ」を奪い、
プログラムの魅力と活力を削ぐ結果に
なっていないだろうか。

発言内容の充実だけではなく、それを
より多くの人々に伝える努力、そして魅
力的な(楽しい)企画の創造が求められ
ている。



やっぱり平和でな くっちゃ!

市民の手作り平和運動
10年目の今年は一

舟越歌一 ●ピースバス長崎



だと考えたい。今、市民一人ひとりによ
る平和への努力こそ大事である。
草の根の市民団体などがいっ
しょになって、それぞれが手作
りの平和運動を企画・運営し、多
くの市民の主体的参加を呼びかけ
る。
全国の平和運動・市民運動が八、
六のヒロシマどまりであることもあつ
て、このことには私たちの呼びかけ不足
もあります。長崎では純粋培養的な
市民運動らしい市民運動が続いてきたの
ではないかと思っています。

「平和運動にこだわって 十年、こりずに十年」

今年もまたピースウィークのキャッチ
コピーを決めるのに「楽しい時間」をさ
きました。全員討議で案を出し、それを
たたき合って、最後は多数決で決めるの
ですが、今年は一やっぱり平和でなく
ちゃ!と「国の安保より個人の安心を」
が最後まで残り、結局前者が一位となつ
たのでこれをメインコピー、後者をサブ
コピーにすることにしました。また「平
和にこだわった十年、こりずに十年」と

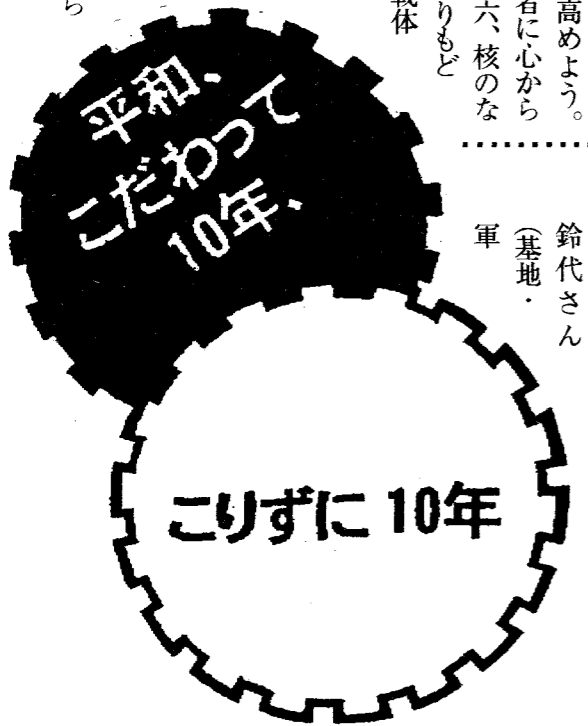
長崎でピースウィークなる企画を始め
てちょうど十年になりました。ピース
ウィークのコンセプトは以下のような極
めて簡単なもので、これで十年やってき
ました。
「平和は自分たちでつくりあげるもの

「市民平和宣言」

今年もピースウィークの基調は、八月
九日の市民集会で採択された「みんな
で読もう!ナガサキ市民平和宣言」に明瞭
です。全部で六項目から成り少し長い
で部分的に紹介します。

- 一、やっぱり平和でなくっちゃ!
『平和は自分たちでつくりあげる
ものだ』という姿勢で十年。私たち
は『平和にこだわって』『こりずに
十年』歩んできました。この間よう
やく『市民』が平和への発言の場を
持つてようになりました。『ポスト
五〇年』という新たな時代の出発
点に立ち、改めて私たちは今日の
平和への課題と取り組みの姿勢を
確認したいと思います。」二、国家
の安保より個人の安心を! (略)
- 三、基地より人権を優先しよう!
(略)
- 四、長崎を平和発進都市にし
よう! (略)

- 艦船が寄港を繰り返す長崎は、
ノーモア・ナガサキを訴える資格
を疑われ始めています。反核をア
ジアの人々と共有するためには、
新原爆資料館は日本の侵略と加害
の責任を明示し、すべての戦争行
為を否定する精神で貫かれていな
ければなりません。『原爆投下中心
碑』を撤去し、新たに『人物像』を
建設しようとする長崎市議の決定は、
爆心地公園をいっそう観光地化し、
核に対する被爆者の怒りを封じ込
めるものです。被爆者と市民の声
を無視する長崎市政を転換させ、
長崎の平和発進機能を高めよう。
- 五、アジアの戦争被害者に心から
の謝罪と補償を! (略)
- 六、核のな
い安全で豊かな地球をとりもど
そう! (略)
- 米ソ冷戦体
制が終わっても、戦後
五十年が経過しても、
まだ私たちは平和な時
代をうちたてることが
できていません。しか
し私たちは、『今』の時
代が新たな戦前期とな
らないように、これから



フィールドワーク三件、 講演会二件、模擬裁判、 街頭行動、集会などなど

では、今年の企画内容を紹介します。
●八月一日 高里
鈴代さん
(基地・
軍)

も平和を愛する市民として地道で
豊かな取り組みが続けていきます。
以上、爆心地公園に集まったす
べての市民の名において宣言しま
す。
一九九六年八月九日 ピー
スウィーク市民集会

原子力艦 入港情報

(85)

1996.8.6~9.6

S = 原子力潜水艦 (原潜) スタージョン級
L = 原子力潜水艦 (原潜) ロサンゼルス級

横須賀

◆ 8/10	13:55	原潜ホークビル (L) 入港。
◇ 8/30	10:00	原潜ホークビル (S) 出港。
◆ 8/30	13:58	原潜キャバラ (S) 入港。
横須賀累計 (うち原潜) : 19(16)		

佐世保

◇ 8/6	08:51	原潜ラホヤ (L) 出港。
佐世保累計 (うち原潜) : 6(6)		

初任ビーチ (沖繩・那覇町)

◆ 9/2	10:05	原潜ホークビル (L) 入港。
◇ 同日	15:41	原潜ホークビル (L) 出港。
◆ 9/6	10:00	原潜ホークビル (L) 入港。
◇ 同日	17:00	原潜ホークビル (L) 出港。
初任ビーチ累計 (うち原潜) : 13(13)		

●1996.1.1から9.6までの各地の原子力艦入港数:

	() 内は原潜
横須賀	19(16)
佐世保	6(6)
初任ビーチ	13(13)
合計	38(35)

6月8日の京都新聞は一面で「舞鶴港、海自隊集約」の記事を伝えました。しかし、私たちはその「集約計画」の内容を知り、がくぜんとしました。要するに、現在の海上自衛隊舞鶴基地内の海面を埋め立てて岸壁を250メートルにわたって延長する。その埋め立て地、約5.6ヘクタールに基地の機能を集約するというものだったからです。埋め立てによって大型艦を直接接岸させるスペースを倍増させるというのは舞鶴基地の大増強計画に他なりません。

7月23日 京都府知事荒巻禎一殿 ●

自衛隊舞鶴基地の埋め立て、拡張計画に反対する要請文

青木信明、青木雅彦、井上清、海老原大祐 (米軍人・軍属による事件被害者の会)、木下芳朗、小林純一郎、山崎治、沢田春彦、瀧川順朗、立川さき、鶴田律子、中北龍太郎 (弁護士)、西野陽子、西野靖、西村恵美子、西村信和、野中祐子、野坂昭生、松尾子、皆川みずゑ (上瀬谷基地はいらないウドの会)、武藤一羊、本並奈津、湯浅一郎 (ピースリンク広島・呉・岩国)、和田喜太郎、森井貞子、沖増修治、河辺昭敏 (核も安保もいらない! あいち反戦の会)、神田公司 (くまもと市民センター)、田巻一彦 (脱軍備ネットワーク・キャッチピース)、徳永啓二、新倉裕史、(ヨコスカ平和船団)、橋本均、林修二 (ピースリンク広島・呉・岩国)、藤本宏秋、堀川敏朗 (西宮市立西宮西高等学校教職員組合)、門河憲生、山口孝雄、山下円美、山地敏夫、山中悦子 (横浜市民)、山本純、吉田満智子、アジアの平和のために学び行動する会、

連絡先: 蓮塾 075-255-1264

それはこの3月のイージス艦「みょうこう」の配備、現在建設中で来春にも完成する予定の対潜水艦ヘリコプター基地の建設とあいまって舞鶴を拠点とする海上自衛隊第三護衛隊群の即応態勢を飛躍的に高めるものです。

一体、何のためにこのような舞鶴基地の強化が進められているのでしょうか。

舞鶴市は軍都の歴史への反省から「旧軍港市を平和産業港湾都市に転換することにより、平和日本の理想達成に寄与することを目的とする」一九五〇年の旧軍港市転換法にもとづいて、平和産業港湾都市をまちづくりの基本にかかっています。

舞鶴の自然を破壊し、海を埋め立てて基地を拡張・強化する今回の計画は旧軍港市転換法に違反するものであり、自然とともに海とともに生きたいという舞鶴市民の希いを負に虹利、こどもたちの未来をうばいとる愚行に他なりません。

基地の集約が目的であるなら、新たな海面の埋め立ては必要ないはずだ。

さらに先の「リムバック96」(環太平洋合同演習)で自衛隊が米軍機を撃ち落とした事故で明らかになったように、自衛隊は現在進められている「有事研究」という戦争計画二もとづいて、ますます米軍との共同作戦を担う軍隊になっています。「朝鮮半島有事」「台湾海峡」での緊張がおられるなかで、日本海に面した唯一の海軍基地である舞鶴が、その戦争の拠点とされようとしていることに身ぶるいします。

私たちは戦争を望みません。舞鶴の美しい海をへだてた対岸の人々との平和と友好を希います。軍都舞鶴のあやまちをくりかえしてはなりません。私たちは舞鶴の海を愛し、平和を愛するものとして、舞鶴基地の埋め立て・拡張計画に反対します。

以上のような立場から、旧軍港市転換法に基く「転換事業を援助すべき自治体の長として、知事が二十一世紀を視野に入れた舞鶴と京都の未来のためにその責任を果たされますよう以下、要請いたします。

1. 防衛施設庁の発表した舞鶴基地の埋め立て・拡張計画に反対の意思表示をすること。
2. 現在、査定中の「舞鶴港湾計画」に同埋め立て計画をもちこまないこと。
3. 旧軍港市転換法にもとづいて、自衛隊基地の縮小・撤去をすすめること。

●八月三日 街頭行動。韓国人被爆者金順吉さんの国と三菱を相手どった戦後補償裁判への支援を訴えるピラとピースウィークのパンフ三〇〇〇枚を配った。

●八月四日 フィールドワーク。長崎から世界に向けて平和を発進する施設である新原爆資料館や平和公園、爆心地公園などの平和発進機能の検証。あわせて原爆投下中心碑を撤去して女神像を建立しようとしている長崎市の行政の問題点の学習。

●八月六日 被曝体験を語り継ぐ会。三歳の時に浦上町で被曝した中村由一さんが原爆と差別に向かい合って生きてきた

半生を語った。あわせて影絵「命の樹」の上演。

●八月七日 弁護士木村晋介さんの講演会。木村さんは長崎の生まれ。テーマは「オウム事件と破防法とマスコミ」で参加者は女性が多かった。

●八月八日 フィールドワーク。「端島高島クルーズ」。端島(軍艦島)を船がゆつくり回り、そこで強制労働をさせられていた韓国人徐正雨さんが去年につづいて貴重な証言をされた。その後、炎天下高島に上陸し、四コースに分かれて炭坑と強制連行の歴史について学習。所要時間三時間半。参加者二〇〇人。夜は全国の間と交流会。

●八月九日 午前中ピースウィーク市民集会。午後フィールドワークで三菱の兵器工場を回るピースバス。そもそもピースウィークは、何の組織にも属さない「ふつうの市民」が八月九日に参加できる場をつくらうということが始まった。この数年、神奈川、生活クラブ生協、広島、大阪などから参加も続いているが、今年には集会后半に原水禁長崎大会の参加者二〇〇〇名が合流して「人間の鎖」をつくった。画期的と言うほかない。ピースバスは毎年の企画で今年マイクローバ

ス一台が満員。

以上ですが、こうしてみるとフィールドワーク三件、講演会二件、模擬裁判、街頭行動、被曝体験を語り継ぐ会、交流会、集会在各一件ということになります。形態だけでなく内容も多彩であることがわかります。なかなかのボリュームで例年ピースウィークが終わるとみなグッタリです。

今年若干の反省もあるのですが、紙面の余裕がありませんので次の機会に。

相次ぐ長崎への
米艦船の寄港

昨年九月のブルーリッジに続き、今年七月にはマクラスキーが「親善目的」で長崎に寄港しました。私たちは、度重なる米艦船寄港の目的は、三菱長崎造船所の技術力をあてにした長崎の修理基地化と有事にあたっての長崎港の軍事利用にあると考えて、入港反対の行動を続けています。非核艦船かどうかではなく、「いかなる軍艦も長崎には似合わないのだ」という主張が広く市民権を得つつあります。



●わしごときが言うのも何だが、被害者意識とはやはり不毛な感情だと思う。うつむいたままの瞳では、「これから」が見えない。代理署名裁判、最高裁判決は予想通りだったが、沖縄の人々の背筋は未だシャッキリと伸びている。…話は全然違うが、二人の名指揮者、クーベリックとチェリビダッケが逝った。民主化後のチェコへ四〇年ぶりに帰ったクーベリックは、スメタナ『わが祖国』を振った。あの「愛国」の名演が耳に残る。安らかに。(ま)

●日本人スタッフと現地人スタッフが協力して「持続可能な農業開発」を進める現場を尋ねてカンボジアの農村に泊まった。電灯のない村の夜のホタル。一族総出の田植え。見渡すかぎりどこまでも広がるハス池。そして、人々のやさしい笑顔。ハンディクラフトの製造現場で義足ははずして働く人々に会わなければここがあのカンボジアだとは思えなかったのだが、USドルさえあれば生活出来たのは妙なことだった。(や)

●発行が遅れ気味で、今月は発行日付とお手元に届く日が一ヶ月近く開いてしまっています。どうかで何とかしたいと思うのですが、沖縄県民投票が「基地縮小」が圧倒的多数の結果に終わりそうだという開票速報を聞きながら書いています。問われるのは「本土」の「民主主義力」です。(た)

会計報告

(96.8.1~96.9.1)

[収入]

○前月からの繰越し	284,313
○今月の収入	59,885
会費収入	49,000
(内訳) 維持団体	12,000
維持個人	6,000
参加団体	0
参加個人	0
通信会員	31,000
カンパ収入	10,640
預金利子	45
資料収入	200
運動収入	0

[支出]

●今月の支出	181,218
事務所代 (9月分)	40,000
水道光熱費	5,531
電話FAX費(6月分)	3,811
郵送費	44,383
文具・備品	0
印刷・コピー代	43,054
郵便振替等手数料	770
雑費	43,669

●次月への繰越し 162,980

*行動費は行動プロジェクト毎の独立採算となっているため、それにあてはまらない収支のみがこの欄に計上されます。

月刊キャッチピース

No.45 (通巻124号)

発行●脱軍備ネットワークキャッチピース
連絡事務所●〒222 横浜市港北区錦ヶ丘
10-4 ハイッ幸1-B

☎ 045(433)3483

FAX 045(593)1824

E-MAIL QZT04441@miftyserve.or.jp

編集●月刊キャッチピース編集委員会

郵便振替●00160-7-136148キャッチピース
定価●100円 (通信会員年間3000円)

引き続き 財政支援のお願い

●会費と夏の一時金カンパで、わがキャッチピースの財政も一息ついた(はず)だったのですが、今月の「繰越額」を見ると一ヶ月分の経費がやつとことという状況。「低空飛行アンケート」の未回答自治体への再送付、調査対象の追加などの出費が響いているようです。引きつづご協力をお願いいたします。キャッチピースをお知り合いにご紹介いただければ幸いです。(二回)